

4. 総括研究報告書

課題 3

3 - 2 (北海道・九州)

2015 年と 2016 年との下肢切断の比較では残念ながら切断の減少はなかった。早期発見・早期治療の効果はまず足病の数に反映し、次いで潰瘍の数に影響し、最後に切断数の減少に及ぶものと考えられる。

また今回 2016 年 1 回の調査ではその増減が分からず、加算 2 年目の 2017 年も調べる必要がある。